

中学校国語科学学習指導案

國學院大學久我山中学校 河野 貴彦

1. 日 時：令和7年6月21日（土） 3時間目 45分授業（10時35分～11時20分）
2. 場 所：國學院大學久我山中学高等学校 学習センター3階 図書館
3. 学 級：中学3年5組（男子生徒39名）
4. 単元名：学びて時に之を習ふ ―『論語』で贈ろう後輩へのアドバイス―
5. 教 材：光村図書『国語3』、『論語』の書き下し文及び訳が載っている書籍、ジャパンナレッジ School

6. 単元の目標

- ・歴史的背景に注意して『論語』を読み、長く受け継がれてきた名言に触れる。
- ・人間の生き方についての孔子の考え方を、自分たちと関連付けて考える。

7. 指導観

(1)単元観

本単元は、「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。（思考・判断・表現 C読む（1）エ）」、「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。（知識・技能 言語文化(3)イ）」・「言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力 人間性等）」を目標として設定する。

まず、教科書に掲載されている『論語』の読解を通じて、その内容が現代に生きる我々と結びつけて考えることができる点を意識させる。次に、生徒それぞれが自分の経験や体験を踏まえた上で、後輩に贈りたい『論語』の言葉（章句）を選択し、それにコメントを添えたメッセージカードの下書きを作成する。そして、いくつかのグループに分かれて、作成した下書きを発表し、感想や意見を出し合う。最後に、出された感想・意見を踏まえて清書するという取り組みを通じて、上記の事項を指導する。

(2)教材観

生徒にとって古典は「昔のもの」とであるという考えが根強い。それゆえ『論語』のみならず、古典は現代の私たちにも活きる教材だと気づいていない生徒が多いように感じる。また、漢文の授業というと、語法・文法解説の授業に偏ってしまい、その教材の魅力を十分に生徒が感得できない可能性もある。

『論語』は、古来より日本でも読み継がれてきた書物である。その内容は、現代に生きる我々のものの見方や考え方にも影響を与えており、本単元の目標に達成に相応しい教材だと考える。

上記の活動を通して、古典は現代に生きる自分と結びつけ、活かすことのできる教材なのだと気付かせたい。

(3)他単元とのつながり

生徒は漢文教材として、1年次に「矛盾」を、2年次に漢詩「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」、「春望」を学習している。その中で、素読の重要性や漢文訓読法は指導を重ねてきている。したがって、本単元では既に身につけた力を活用して本文を読解するにとどまらず、中学漢文学習の集大成として、また高校古典学習への橋渡しとして、学習者自身のものの見方や考え方を広げられるような指導を行いたい。また、下級生にもメッセージカードを通じて、古典への興味を喚起したい。

8. 生徒観

本校は「男女別学」という形式を採っている。同じ敷地の中で、男子生徒と女子生徒が校舎を別にして授業を受けている。故に、教室の中に異性はいないため、さながら男子校、女子校のような雰囲気である。中学男子生徒のクラスは一般クラスが3クラス、他校で言うところの進学クラスに当たる「STクラス」が2クラスの計5クラス編成である。今回、研究授業を行う5組はSTクラスに当たる。国公立大学や医学部、難関私立大を目指している生徒が多く、積極的に授業に参加しようという意欲を見せる生徒が多い。一方で、集中力が途切れがちな生徒もいるため、授業展開に工夫が必要である。

9. 単元の目標

- ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。 (知識・技能)
- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見を持つことができる。 (思考力・判断力・表現等)
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力 人間性等)

10. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
単 元 の 評 価 基 準	○長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(知(3)イ)	○「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見を持っている。(C(1)エ)	○『論語』がもつ価値を認識するとともに、学習活動を通じて我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとしている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 基 準	①漢文のきまりを理解し、正しく音読し、また書き下し文が書ける。 ②漢文法に則って『論語』のことばの意味を理解している。	①『論語』の言葉を引用し、文章構成に留意しながら、説得力のある文章を書いている。	①漢文特有のリズムに注意し、音読しようとしている。 ②『論語』の言葉の意味と現在の自分とを重ね、意見をまとめようとしている。 ③意見交換に参加し、自分の考えを深めようとしている。

11. 単元の指導計画及び評価の計画（全9時間扱い）

時数	学習内容・学習活動	評価方法
1	○単元の目標と評価基準・学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 ○専門用語や漢文訓読法といった、第2学年までに学習した内容を復習する。	（知）① ○交流の様子、机間指導による観察 ○ノートの内容
2 ～ 6	○『論語』がどのような書物なのか、孔子がどのような人物なのか資料集等を用いて確認する。 ○教科書掲載の『論語』各章句を音読し、漢文独特のリズムを味わう。 —教科書掲載章句— ・「学而時習之」（学而） ・「温故而知新」（為政） ・「学而不思則罔」（為政） ・「知之者、不如好之者」（雍也） ○音読に従って書き下し文・現代語訳を作成する。 ○重要句法や重要語を理解する。 ○孔子の物の見方や考え方を捉える。	（主）① （知）② ○交流の様子、机間指導による観察 ○ノートの内容
7	○『論語』（書き下し文、現代語訳付き）を読み、その中から「後輩に贈りたい章句」の視点で言葉を選ぶ。 ○選んだ章句について、そこにあらわれているものの見方や考え方と現代を生きる自分とを結びつけて、メッセージを作成する。	（思）① （主）② ○交流の様子、机間指導による観察 ○メッセージカードの下書き
8 （本時）	○選んだ章句について、そこにあらわれているものの見方や考え方と現代を生きる自分とを結びつけて、メッセージを作成する。 ○作成したものをいくつかのグループにわかれて発表し合い、それに対して感想を出し合う。	（思）① （主）③ ○交流の様子、机間指導による観察 ○メッセージカードの下書き ○感想文
9	○前時の相互評価を踏まえて加筆、修正を行う。	（思）① （主）② ○修正したメッセージカード

12. 本時の学習（全9時間中8時間目）

（1）目標（本時の評価基準）

選んだ『論語』の章句について、そこにあらわれているものの見方や考え方と今を生きる自分とを結びつけて、メッセージを作成する。その上で、それをいくつかのグループにわかれて発表し合い、それに対して感想を出し合う。

（2）準備物

教科書、ノート、筆記用具、デバイスもしくは『論語』（書き下し文、現代語訳付きが載っている）書籍

(3) 事前の指導について

学校での授業内で章句を選定するには時間がかかりすぎてしまう。また、こちらでいくつか章句を選定することも想定されるが、教授者は生徒にじっくりと論語と向き合って欲しいと思っているため、そのような措置はとらない考えである。幸いにして、本校ではBYODを導入しているため、一人一台のデバイスを所有している。また、「ジャパンナレッジ School」を導入しており、その中には『ビギナーズクラシック 論語』や岩波新書『論語』等も入っているので、家庭学習にて選定させることができる。図書館にも『論語』に関する書籍は充実している。そこで円滑に作業に入れるように、予め『論語』に目を通しておくように指示をしておく。

(4) 本時の展開

	活動内容	指導上の留意点・配慮事項	評価基準
導入 (4分)	○本時の目標を確認し、学習の見通しを持つ。 ○本時の作業内容を把握する。	【本時の目標】 ○孔子の考え方を自分の経験などと関連付けて後輩へのアドバイスを考え、まとめよう。 ○文章をグループ内で評価し合おう。	
展開 (38分)	○選んだ章句について、そこにあらわれているものの見方や考え方と自分の体験等とを結びつけて、贈りたいと思う理由（メッセージ）を作成する。また、グループ発表の準備をする。 (15分) ○グループ内で発表を行い、良かった点やアドバイスをふせんに書き出す。 (23分)	○メッセージカードには以下の2点を盛り込むように伝える。 ①『論語』の贈りたい言葉 ②その『論語』の章句を送りたい理由 ○「後輩に贈りたい言葉」という視点で章句を選ばせる。 ○自分の経験や日常生活と結びつけ、孔子の考えに共感できる点や孔子の言葉が当てはまると感じた体験を挙げながら選んだ理由や感想を書かせる。 ○図書館にある本を使用しても良い。また、デバイスを用いて「ジャパンナレッジ School」を活用しても良い。 ○机間巡視をして作業の手が止まっている生徒にはどのようなアドバイスを贈りたいのか確認させる。 ○その章句を選んだ理由が分かりやすく書かれているか目を向けさせる。	○取り上げた『論語』の章句の内容に基づき、自分の考えを述べるができているか。 (思・判・表) ③意見交換に参加し、自分の考えを深めようとしているか。(主)
まとめ (3分)	○次回の作業内容を指示する。	○次の時間までにプリントをなくしたり忘れたりしないために、作業途中でも提出させる。	

【目標】

☆孔子の考え方を自分の経験などと関連付けて後輩へのアドバイスを考え、まとめよう。

【注意】

※メッセージカードには次の2点を盛り込む。

Ⅰ、『論語』の贈りたい言葉

Ⅱ、その『論語』の章句を送りたい理由

※自身の経験や体験と結びつけて書くこと。

①『論語』から、後輩に贈りたい言葉を選び、書き下し文の形で左に書き出そう。

--

②その選んだ理由を書こう。

※自分の経験や日常生活と結びつけ、孔子の考えに共感できる点や孔子の言葉が当てはまると感じた体験を挙げながら書くことよ。

--	--	--	--	--	--	--

③選んだ章句とその理由をグループ内で伝え合い、新たに気づいたことや考えたことを書こう。

--	--	--	--